

広州ゼミ合宿の報告

外国語学部 中国語学科 3年 刘華欽

● 広州ゼミ合宿の報告

8月19日から24日までゼミ合宿で広州に行ってきた。初めての広州だが、たくさん良い思い出や経験ができた。その中に、印象に残つたことは三つある。一つ目は広州の有名な繁華街の一つ北京路である。そこには大きなデパートや有名なファッショングランド、フルーツティやフレッシュフルーツなどの流行している食べ物や腸粉などの地元の伝統的な食べ物のほかに、宝飾店、書店、地元の刺しゅうや彫塑、葉草茶などもある。北京路で楽しめることはショッピングだけではなく、史跡も豊富である。南越国の王宮跡である南越国宮署遺址や秦王朝時代の造船所跡が有名である。そして、道路の真ん中のガラスパネルを通して、地下に広がる千年古樓遺跡を見下ろすことができる。この遺跡は2002年で発見され、南漢、唐、宋、明、清五つの時代が重なり合って、11層もある。

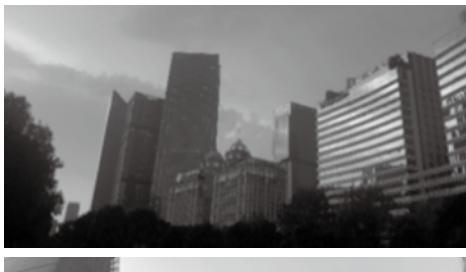
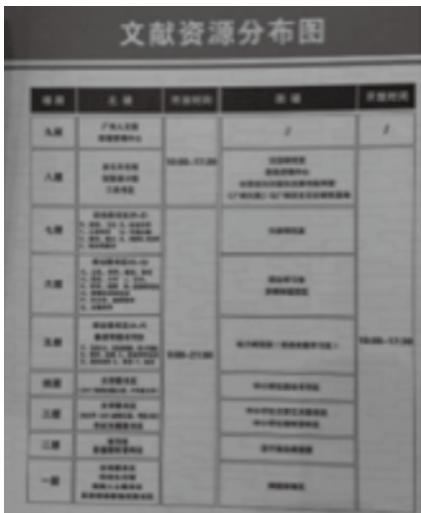
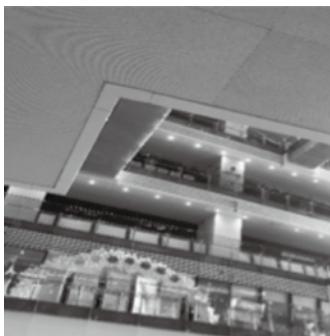


北京路と千年古樓遺跡

二つ目は図書館である。日本の図書館だと書籍を分類して各コーナーに入れる。そして、読書や自習するスペースを設置している。しかし、広州図書館の中には、閲読体験区、親子絵本閲読コーナー、言語学習コーナーなどが設置していて、人々に読書を推し進めていると感じた。広州図書館のホームページによると、広州図書館は、広州市政府により設立され、公衆の為に公益性公共文化と社会教育を行う機関である。紙の文献、録音・録画製品、デジタル資料など様々な知識情報記録の収集、整理、保存を基礎にし、資料の借覧と広報、情報コンサルティング、展覧講座、芸術鑑賞、文化展示とデジタル化ネットワークサービス及び公衆の学習、研究、コミュニケーションの空間を提供するとともに、全社会に普及する閲読活動を展開している。広州図書館は世界大規模の都市図書館の一つで、「美しい書籍」をデザイン理念に、「之」という字の形で、重なり合うように設計され、書籍の重なりと歴史文化の沈積を寓意する。それから、騎樓などの文化元素を取り入れ、嶺南の建築芸術の特色を現した。



広州図書館



中国農業銀行、広州銀行などメガバンクの建物

三つ目は四日目に行った広州の中心部珠江新城である。今まで行った市街地区は繁栄しているが、周囲はまだ工事現場があつて開発している様子が見える。それに対して、珠江新城の駅に出れば、たくさんの高層ビルが目に入る。周囲には広州タワーや広州大劇院、広州博物館などがある。道もとてもきれいで整えていて、今まで見てきた中国とのイメージが全く違い、日本の東京と匹敵できるくらいの場所である。さすが中国の経済発展都市のトップの一つであると感じた。百度百科によると、珠江新城は中國三大国家级中央商务区の一つ（ほかの二つは北京と上海陸家嘴）である。珠江デルタ経済圏を中心にしており、華南地区最大のCBDである。香港・マカオの貿易自由化モデル基地であり、すでに華南地区の経済と金融、科学技術、ビジネスなどのハイエンド産業の集中地区になつていてる。



広州タワーとの集合写真

繁華街である北京路、広州最大の図書館である広州図書館、そして新しい都心である珠江新城はまるで先進国のようである。それに加えて、広州に滞在している間、すべての店舗は支付宝、微信支付の携帯で決済ができ、そしてタクシーも「滴滴出行」というアプリで呼ぶことができる。出かけるときに携帯だけで済むというとても便利で、中国近年が急速に発展していると実感した。